

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年6月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	令和7年5月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和7年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、1階1丁目と2階2丁目の2ユニットあり、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、直ぐ近くには医療機関（しよこらクリニック）やスーパー等があり、ご利用者様にとって恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとしては、グループホームショコラながかり、小規模多機能ホーム、かごしまショコラ保育園、しよこらクリニックの事業も行っております。ご利用者様の日常生活における活力をもたらし、生き甲斐や心の充実に繋がる環境作りにも取り組んでおります。新型コロナウイルス感染予防の為、交流を自粛し、ご家族様との面会も制限をしていますが、感染状況を見ながら制限を少しずつ緩和しているのが現状です。スタッフにおきましては、「ご利用者様の為に」との思いと「今日が最期の日」という気持ちで、より良いケアを行うように毎月の勉強会を行いケアの質の向上を図りケアを行い、一日でも長く楽しい時間を過ごして頂ける様にスタッフ一同、日々努力をしております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供も行っております。又、施設内での日々の生活を解かって頂く為に、日々の様子や活動参加中の様子を写真撮影し、ご家族様に閲覧して頂いたり、ショコラ便り（事業所新聞）にお便りも添えて毎月配布致しております。入所間もないご利用者様へは、不安な気持ちもあると思うので、ご利用者様に寄り添い、ご家族様と時間を決めてお電話したりしご利用者様とご家族様、ショコラとのつながりを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは利便性の良い住宅地に平成16年に建てられ、町内会にも加入して回覧板や広報誌を通して地域の情報を把握したり、地域やデイサービスの方々から花や野菜の差し入れを頂くなど、地域との関わりを持てるように努めている。母体医療機関も近く、主治医の往診や看護師による健康管理等が定期的に行われ、家族の思いの変化や利用者の終末期の段階に応じて方向性を共有しながら看取りも行われている。夜間は24時間連携体制が取られ、いつでも主治医の直接対応が可能であるため、本人や家族の安心に繋がっている。

ユニット毎に理念を掲げ、日々唱和して意識付けを図り、行動手帳に基づく毎月の目標や職員に対する年2回の自己評価等によりケアを振り返り、理念に沿ったケアが実践できるように取り組んでいる。個別的な支援については居室において1対1での支援に努め、トイレ誘導時や同性介助での入浴、さん付けでの呼称、耳の遠い方への身振り手振り・筆談等、同じ時間を共有して一人ひとりの思いに柔軟に対応する姿勢を大切に支援している。

面会は事前予約制で、30分以内に2名まで居室で行われている。家族とは受診、買い物、自宅への一時帰宅や外泊、墓参り、ドライブ等を楽しんでおり、人込みへの外出は自粛している。電話や手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問理美容、新聞の定期購読、読書、裁縫、携帯電話の活用等を支援し、これまでの馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を入口と共有スペースとご利用者様が見える側と3カ所に提示しています。毎月のユニットミーティング際に目標を設けて、目標に向けてスタッフ一人一人が目標に向けて取り組んでおります。	ユニット毎の理念を職員と利用者が目に付く共有スペースや玄関に掲示し、毎日の朝礼で唱和して意識付けを図っている。行動手帳に基づく毎月の目標や職員に対する年2回の自己評価等によりケアを振り返り、理念に沿ったケアが実践できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中間地区の町内会へ加入しています。敬老会などお誘いは頂いておりますが、いまだコロナ感染予防の為外部の行事への参加は控えております。コロナの状況を見つつ外部の行事へ参加し交流を図って行きたいと思っております。地域の方にボランティアで来て頂き草むしりや掃除をして頂いたりして地域との交流を図っております。	町内会に加入し、回覧板や広報誌を通して地域の情報を把握したり、地域やデイサービスの方々から花や野菜の差し入れを頂いている。高校の実習生や民生委員によるボランティア等は受け入れているが、地域の行事への参加は自粛している。近隣の散歩時には住民と挨拶を交わし、母体クリニックを通して認知症や入居に関する相談に対応するなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の広報誌を通じて閲覧することで町内の情報を得ると共に町内にショコラがあると言うことを発信しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の民生員や鹿児島市の地域包括支援センターへお声かけを行い参加して頂き運営推進会議を実施しております。ご家族に対し年2回のアンケート調査を回答しやすいように無記名で実施しています。アンケート結果に基づきサービスの取り組みなど状況を報告しお話し合いを行いそこでの意見をサービス向上へ活かしています。出席出来なかったご家族様へはアンケート結果と会議の内容を各ご家庭へ郵送しお知らせさせて頂いております。	会議は民生委員、薬局、地域包括支援センター職員が参加して2か月毎に開催し、ホームの運営や活動・ヒヤリハット等についての報告、勉強会、家族に対するアンケート調査の実施等を通して、意見や要望を伺う機会となっている。全家族に参加勧奨しているため家族の出席も多く、年2回は家族会と一緒に開催して、サービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合などの案内があった際には積極的に参加しています。又ホームページなどを閲覧しサービス向上に努めています	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、書類関係等の事務手続きは全て事務局が窓口となり対応している。研修会はメールで案内が届き、職員は勤務状況や受講希望等を確認しながら、オンライン会議システムや動画利用の教材等によりできるだけ参加できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等適正化のための指針」を設けていつでも閲覧できるようにし、実施し定期的に身体拘束廃止の研修を行っています。研修を通じて身体拘束に関する理解を深め、実践しています。施設の施錠については日中はしていませんが防犯上20時以降は玄関施錠を行っています。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、3か月毎に身体拘束等適正化委員会を開催して、拘束の有無について確認している。スキルアップ勉強会では虐待や身体拘束に関する研修を実施し、スピーチロックや介護におけるグレーゾーン等について具体的に話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。ホームから戸外へ一人で出かける利用者はいないが、日頃から見守りや対話に努め、利用者に寄り添ったケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての事を基礎知識から日頃からのケアが虐待につながっていないかを、定期的な研修を行い、職員全員で取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の勉強会のスケジュールをもとに社内研修を行いその中で地域福祉擁護事業や成年後見人制度についても学び職員全体で取り組んでいます。ご利用者様が必要な方は、それらを活用できるように支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧の一つ一つ十分な説明を行い、不安や疑問点を伺い納得された上で契約を進める様に留意しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	多くは面会の際に、その場にいる職員へご家族様は要望や意見を気軽に仰って下さります。面会以外でも気になることがあればいつでも言って頂けるようにご案内もしております。面会に来られた際にも日々の生活の様子などお伝えし、その際にも家族様からご意見を頂いたり、年2回のご家族様へのアンケートを実施し自然な形で思いを引き出せるように努めています。	利用者の思いは日頃の会話や表情・仕草等から把握に努めている。家族の思いは運営推進会議・面会・アンケート等の機会を通じて把握に努めている。ショコラ便りを家族に郵送する際には、裏面に利用者個人の写真と担当職員によるコメントを記載しており、家族から直接感想や意見等が頂けるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	要望などある場合は、その都度聞き、職員の意見として代表者へ提案させて頂いております。その他にも年1回の自己評価と職員が会社を評価する機会を設け、3者面談等で意見や要望を聞き、必要に応じてその都度、個別相談にも応じている。	職員は20代から60代と年齢幅があるが、年代毎にコミュニケーションはうまく図られており、申し送りやミーティング等を通して意見や要望を把握し、個別的に相談等を伺い、対応できるように取り組んでいる。有給や希望休の取得、勤務交代、研修会への参加、休憩時間の確保、資格取得へのバックアップ等、職員が意欲的に働きやすい職場環境となるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、給与は資格だけではなく職員本人の努力や実績、勤務状況や自己評価を考慮してベースアップを決める体制にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の各ユニットのミーティング前に勉強会を行っています。回覧の中に社外研修の案内を行い、希望される方は社外研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までは全職員で研修会や懇親会の機会を設け交流を図っていましたがコロナ禍の為、規模を縮小し少人数での交流をしながら環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ず見学、スタッフがご自宅や入院先へ訪問を行いご本人様とお会いしています。その上でご本人様やご家族様が不安や要望をよく聞き受け止める様に努めている。又、他の介護保険サービスの説明をするように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際や契約の際にも、お話中から困りごとや不安な事に傾聴し一つ一つご説明させて頂き、納得してもらったうえで利用して頂けるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングにて知り得た情報をスタッフ間で情報を共有し、ご本人様にとって今一番必要な支援の方法を考え、その時にあったサービスの提供、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の好きな事や趣味や得意な事を引き出し長年の技や知恵を教わる事で、ご本人様の人格を尊重しながら過ごすように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ流行を注視しつつ面会の制限も少しずつ解除を行い家族との関係を大切にしております。月に一度の「ショコラだより」に日頃の様子を写真を添付とお手紙を書いてお知らせしご本人様とご家族様が良い関係を保てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所間もなく、馴染みの方が少ない事への不安を解消するためにも、1丁目と2丁目の交流を行い馴染みの関係や場作りを行っております。	面会は事前予約して、知人を含めて30分以内に2名まで居室で行われている。家族とは受診、買い物、自宅への一時帰宅や外泊、墓参り、ドライブ等を楽しんでいる。電話や手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問理美容、新聞の定期購読、読書、裁縫、携帯電話の活用等、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の様子を見ながらその時々で利用者様同士の相性や関係性等に配慮した配置にし心地よい時間を過ごして頂けるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報提供や、その後も必要な方には継続的な支援を行っております。関係が続く事で新しくご紹介を頂いたりして関係を大切にしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様を第一に考えてご家族様の要望や希望をお伺いしつつ「その方らしい生き方」を中心に考え、介護者の自己満足にならないようなケアを心掛けている。	入居時や病院等からの情報を基にフェイスシートを作成してミーティング等で情報共有し、誰が見ても理解できる「ケア手順書」を作成し、家族の思いも支えながら本人本位のケアとなるように努めている。元気な頃の利用者を思い出しながら、好きなことややりたいことを反映させた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にこれまでの生活の様子を伺い生活歴などの情報を収集し、状況把握に努め、入所の際は、昔のアルバムや使っていた馴染みの物を持参して頂き、ご利用者様本人との会話の中でもこれまでの生活環境や生活歴の聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや定期的にミーティング、ケア手順書を通じて、入居者様の状態（経過）を把握したり、その都度何かあれば情報を共有しケアの統一に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて意見を出し合い、ケア手順書を作成し現状を把握しています。本人・家族の意向を重視し、主治医や訪問看護にご相談したりしております。ご利用者様本意の介護計画の作成を心掛けている。	本人や家族の思いや意向等を取り入れながら、カンファレンス・ミーティング・毎月のモニタリング等を参考に、主治医や訪問看護、担当職員の意見も聴取して介護計画を作成している。計画は本人・家族の気持ちや状態に合わせて本人本位となるように協議し、心身の状態変化に伴って計画を見直し、必要に応じて修正を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様一人ひとりの日々の様子やケア、サービス提供の内容、健康状態なども個別に記録し、職員間で情報を共有している。状態の変化や気づきも情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に通い、近隣には小規模多機能施設やクリニックも備えております。在宅復帰後も小規模や通いを利用して頂き慣れた空間を継続的に利用できる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者・消防署の隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。散歩や外気浴の際には地域の方々から声をかけて下さったりしています。地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による回診を2週間ごとに行い診て頂き気づきの報告を行っております。皮膚科や整形外科受診などが必要な際には基本家族同行で受診しておりますが、家族が行けない際には家族の了承のもとで職員が同行している。	入居後も継続して本人・家族が希望する医療機関の受診が可能であるが、全利用者が母体医療機関を主治医としている。主治医の訪問診療が2週間毎、訪問看護による健康管理が毎週行われ、眼科・皮膚科・整形外科等の専門診療科の受診は家族と職員が連携して支援している。夜間は24時間連携体制が構築されており、主治医の直接対応が可能であるため、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常において気づきがあった際には看護師へ報告し情報を共有し対応し、毎週の訪問看護にて看護職員に日常の関わりの中で得た情報や気づきを伝え相談し適切な受診や看護を受けられる環境作りに努め医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。入院の際は、病院関係者へ情報提供を行い、退院時の際は、カンファレンスに参加しています。入院時は関係者へ連絡し状態や退院の日程を段取りを行い、早期退院を図り、退院後も、かかりつけ医と連携し早期に現状回復できるように情報収集に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される際にも説明し同意を頂き、終末期の際にも再度ご家族へ説明し同意を得るようにし、重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも「緊急時の対応及び看取りに関する方針」において方針を定めています。	「重度化した場合における対応に係わる指針」「看取りに関する指針」を整備し、「急変時や看取りについての事前意思確認書」を入居時・家族の思いの変化や利用者の終末期の段階に応じて説明し、同意を得ている。令和6年10月に看取りの事例があり、スキルアップのための勉強会を実施するなど、可能な限り希望に沿ったケアとなるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、見える場所へ掲示し日頃から全職員が共有できるようにしている。応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災も昼夜それぞれを想定し発生場所もその都度変えて色々な場面も想定し年2回消防訓練を行っています。消防訓練の際には、消防の指導を仰ぎ、反省点を次の訓練に活かしている。地域の方々やしょこらクリニックとも連携し消防訓練の際には一緒に参加し緊急時には協力を得られるよう働きかけている。	B C P 計画を作成し、夜間想定を含む火災・地震に対する災害訓練を年2回実施し、うち1回は消防署立ち会いで実施している。地域への声かけは行っているが、参加は得られていない。自動通報装置が設置され、避難経路や消火器の取り扱い等についても確認している。備蓄は2階ユニットに水・レトルト食品等を約3日分準備し、付箋で賞味期限がわかるように記載して管理している。ラジオ・懐中電灯・カセットコンロ・自家(風力)発電機等も用意して災害対策に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様の尊厳やプライバシー確保に配慮しケアを心掛けている。言葉かけの際には、声の大きさやトーンに配慮し、丁寧語で言葉かけを行い配慮しております。	倫理、接遇、権利擁護、個人情報等に関する研修や勉強会を実施し、個別的な場合には居室において1対1で支援している。トイレ誘導時は人のいない場所で声かけし、同性介助での入浴、さん付けでの呼称、耳の遠い方への手招き・筆談等、利用者の思いや習慣を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をしたり思いをくみ取り希望に合わせた環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・個別の運動・公文式等1日の流れはありますが、ご利用者様一人一人のペースで無理はせず参加出来るようにし、職員本意のケアにならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に1度の出張カットを利用したりし、季節ごとに洋服などは衣替えを行い、必要な洋服や物等はご家族様へその都度連絡しお願いし購入して下さる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事について、食材高騰の煽りをうけ給食サービスを利用しております。週に2回火曜と金曜の昼食と夕食は手作りの食事（行事メニューや季節のメニュー）を提供し食事を楽しんで頂けるように努めています。	週2日はホームで手作りしており、他は業者に委託しているが、正月やクリスマス等の行事食は手作りしている。利用者の状態に合わせて刻み・ミキサー・とろみ等の食事形態で提供し、利用者は洗い物・テーブル拭き・準備や下膳等、一緒にできることを手伝って、食への楽しみに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事の献立は管理栄養士にてカロ リー計算されており、摂取量の記 録と2週に1回の体重測定を実施し ている。また、利用者の嚥下状態 に合わせて食事形態の工夫や、介 護用食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	新しく入所された方は、希望される方 には初回無料の歯科往診を行い、口腔内 の状態の把握に努め必要な場合にはご家族 様に状況を説明し了解を頂き歯科往診、 治療を行っています。毎食後、口腔ケア を実施している。毎食後1日1回は職員が 口腔ケアを行い、義歯の方は夜間義歯洗 浄剤による義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をする事を大切 にし、羞恥心に配慮しつつ一人 一人の排泄パターンを把握し、 本人に気持ち良く排泄してもら えるように支援している。	利用者毎の排泄リズムを把握して排泄 チェック表を活用し、さりげない誘導に 努めて日中はトイレでの排泄を支援して いる。おむつ・リハビリパンツ・夜間帯 のトイレ誘導など、利用者の希望や状態 に応じて排泄の自立が図れるように取り 組んでいる。殆どの利用者が緩下剤を使 用しており、体操・腹部マッサージ・水 分摂取等に配慮して、便秘の予防に努め ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	毎日の日報で排便の状況を把握し 情報を共有し便秘の日数や便の状 態や量を記録している。水分摂取 や体操や散歩・廊下歩行を行い便 秘予防に努めている。主治医との 連携を図り便秘が長くならないよ うに緩下剤を頓服にて使用し便秘 改善に努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴日火・木・土で決まっているが、その他の日に他の部署で協力して頂き入浴を行っています。必要な方には手浴・足浴・清拭をその都度、実施し清潔保持に努めている。	週3回、午前中の中入浴を基本としており、排泄の失敗等の場合には、随時シャワー浴等で柔軟に対応している。浴槽が大きいので、気の合う利用者同士や夫婦で入浴することもあり、入浴剤やゆず湯等の使用で気分転換を図っている。殆どの利用者が湯船に浸かることができ、入浴をためらう利用者も現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、ご本人様への確認の上、食後の休息の時間を支援している。夜間は一人一人の就寝される時間に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食ごとに薬ケースに分けて、内服の際は内服ミスのないように職員2人でダブルチェックを行い服薬の支援を行っている。薬の内容が変わった時にはその都度申し送りし共有し、ケア手順書にも記載し、月に1回のミーティングの際にも薬の内容が変わった事を共有している。薬の説明書を利用者ごとの個人ファイルに添付している。利用者の変化に職員全員で気付けるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字や色塗りやパズルを行い楽しんでおられる。食事の盛り付けや洗濯物たたみなどそれぞれの役割をもって行い、日常生活を楽しめるようにしている。散歩を行い、外気に触れ、気分転換にも行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物などの外出支援は新型コロナの感染予防の為に行っておりません。頼まれた物などはご家族様へ連絡して買って来て頂いたりしております。天気の良い日は、気分転換や体力維持の為に、散歩へ行ったり、桜の季節には近くの公園へ花見に行ったり、花を見に広い公園へドライブに行ったりと出来る範囲での外出支援は行っている。	人込みに出かけることは自粛しており、日常の散歩、近隣の公園での桜の花見、ドライブでの秋桜や紫陽花見学、マリナーポートへ出かける等、少人数での外出を支援している。デイサービスの車椅子対応車での外出や、家族との受診・外出・一時帰宅等、できるだけ楽しく外出できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の所持はお断りしております。入居時に本人・家族と話し合い、ご入居様が不安な際には少額は所持して良い事とし、お買い物などは希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様やご友人とのお電話をお取次ぎしお話をしています。贈り物があつたときに本人からお電話をするようにしたり、頂いた物と一緒に写真を撮りお便りに添えてやりとりの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように利用者様と色塗りや季節の飾り作りで空間を飾りご利用様に季節を感じてもらい居心地良く過ごせるように空間作りをしています。介助の際の声かけや音、掃除音など不快に感じさせないように配慮しております。	明るい共用スペースには利用者と職員と一緒に制作した季節の飾り付けや作品等があり、居室の入口には利用者の年間の作品が掲示されている。対面式キッチンからは調理の音や匂いが伝わり、家庭的な雰囲気の中でゆったりと寛げる環境となっている。空気清浄機や加湿器も設置され、定時の換気も行われて、空調・衛生管理に配慮した支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何もない殺風景になりがちな共有空間も季節の飾りをつけて明るい空間作りを心がけております。共有空間にソファやマッサージ機を置き、好きな所で好きなように過ごせるようにしています。皆様、楽しい時間を過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にレクリエーションで作った物を飾ったり、ご家族の写真を飾ったり、ご自宅で使っていた馴染みの家具や物などを持ち込んでもらったり、希望に合わせてベッドの配置も行い本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は全室洋室のフローリングで腰高窓仕様となっており、電動ベッド・エアコン・洗面台・クローゼットが備えられている。利用者は使い慣れたテレビ・冷蔵庫・扇風機・食器等を自由に持ち込み、写真・アルバム・仏壇・ソファ・ジョイントマット等を工夫して配置し、憩える暮らしとなるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に手すりを設置したり、トイレの場所が分かり易く大きく表示している。動線には、物を置かないようにし、安全に歩行出来るようにしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない